2378
203

遠3
2378
203

東里山人作
勝川春扇画

前編

虚實分解 傾城客問答

庚辰春

耳泉堂梓

序

藥種屋の正鋪前より就も。鹽押の茄子バ。熊の膽の形を成し。長吏街より干も白瓜ハ雪踏の皮らと和らぐ。胡瓜より似くる。芭蕉天あり。ゞゞ昌蒲と壯若疊鰯の身代より布海苔ハ連も間より合ず。漆膠の名代より鼈甲の抗ハ用ゆ。屠蘇の袋も。白らび。笠當と視らぶ。たどんと共より。煤玉を鬻バ。詛齟の種ゝ。姿が似も土瓶と尿瓶。豨と猪。猫と虎。猿が却て似ま〳〵ゝ。曹略利氏の發明ゝ。唐人のゝより。陽虎が罪を免ゝ〳〵も。似ゝ人あるの幸ひ。ゝんゝ。ゝれバ高下。尊卑あるゝ。貧人の目利ゝ。ゝと百も得心で。三孔方の智惠をゝるひ〳〵。客問答ハ。麦門冬の。頭口ゝ。毒ゝ藥ゝ。たハ云を書誌〳〵て。今年も作者の真似をゝる。鳥より似る蝙蝠の。黑暗より。翼をのゞ〳〵。奥より似る。蛙の兒のむゝゝより序を記ゝ。

文政二卯年秋稿成

同三年庚辰春發販

東里山人誌

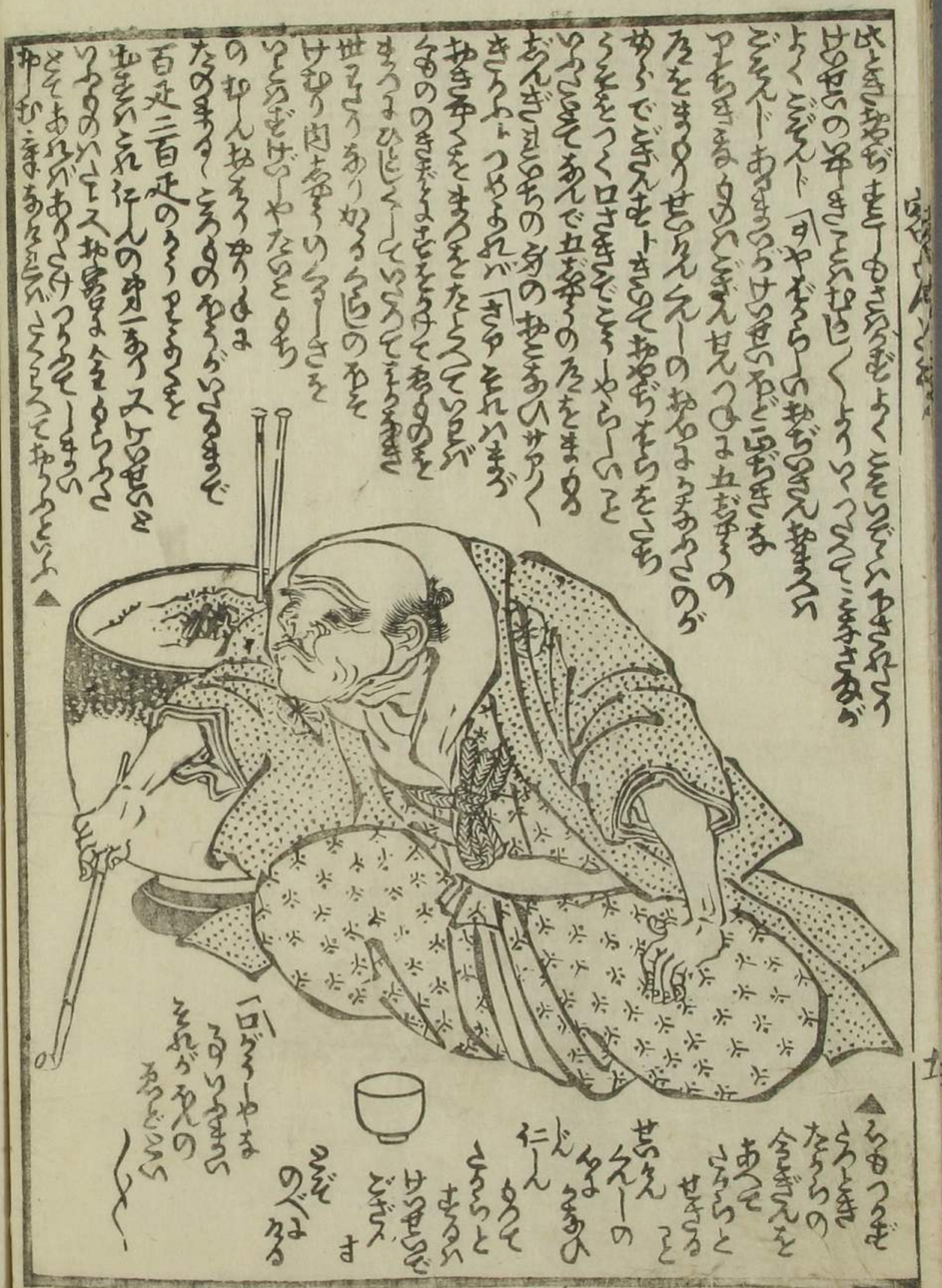
市川
あんけらこんけら
ぷんぷくぺん

とうきちー

ようんごい
きんのくぼ
ゆごとのろうさ
ちんちゅうど
口上

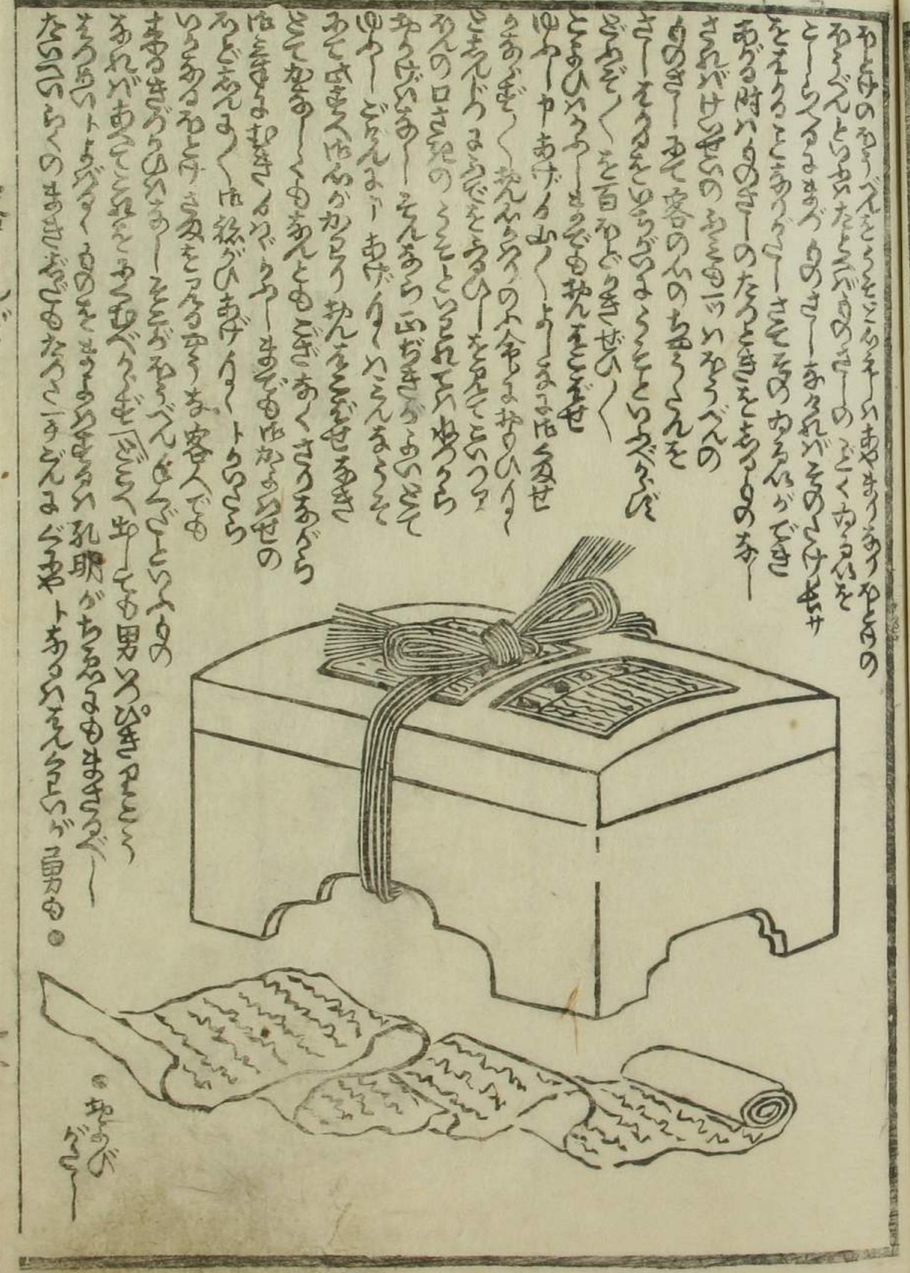
ヤヤヂ
ヤヤヂ
ムスコ

ハテこれハ
ちがく〜
ハテこれハ



虚
實

客人



◐くんぢゝぶろくゝゝのことあら
金もゝ
ゝあね
とゝとゝ
ゝが
ゝゝ
むゝんも
ふゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
きゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

色即是空ととうれるあやうの人うぐんろんよう
あることはをひるまげていのとくこのさぎを
くらまとうんくるのあーけをのくろるる
おひさもて井のくちのるるれ方らをを
あくぎよーのくぎをうて天をうがぶ
ちらさるんとあやぢうぎるうくく出を
ろうあぐれがけのをのもそのぎ
ちくけてえくくるる作去そらまぢ
まくうぐでけのをうゆくうのある
のろ作とヤうのせんこくうり
けのをいのぎのくくをおえどろ
つぢうかけどうくをえうあるる あく
いくれるぎんぢんさる一ぢぢんいうを
をちいんとさをををくくい出くうろう
まぐけいをいとうるのいんのくちの
ワるぐーさ四月のあとぎより二月ぜろく
ろう年三月ぜろく四月くうえぢろ舟月ぜろく
六月うぐ七月ぜろく八月ろきく同じく
月又九月ぜろく又月又十月ろをを
れこるたろ日ゆーとれれのぬを
きくくるゆおひくのあじあり二つをーて
くるをきをもちひをこるその付よのぎ

①えの〈下月
ゆ十あの
人をさの
くせんと
おるるあ
男でさく
よくいあの
ぎぢて
くうんや
女子の多さ
しそび大全
をくくくく
きあくこと
いうぐし
えんまわくく
いくれをの
大の
あをくち

あらくるよをををちんぢうるるあ
いくるるものでおの主がのをあくる
くるくるゆるーこれ女大今ぢで
できるものいーるあく
あるのい十あ二十あのさいく
又その日のりん日を
あーぢこの客さ
あまるを
くらのりろひ
ものありて
又い
内あう
まで
あぶるる
ちろぎの
をいぢをこと
とれこるる
けのをいの
ちさくらきこ
一ぬんのくち
ぢくるよのこ
んまーぢめて
あけーいま
あくれが客さ
あれをいるひみいをこーむる

①たぐ あけくれくくろとけをちんぢしてたをるあるぢき
客のあるようふとねぢくをくくのくくんぢくこも①

ちのをちよ
ちのあい
ものと
ろんや
ろんを
ちさ
ちら
ざい
トの
客の
ちの
ぢ
ゆ
あり
ぢで
さ

東里山人作

客間答
庚辰春
東里山人作
勝川春翁画
泉市版

東里山人作
勝川春扇画

後編

繫情写真

庚辰春

耳泉堂梓

客　問　答　後編　巻

客人

男

馬琴製
泉市

「イヤヤクイン
いらっしゃる

客人こうこう

つき　夕のあさらのたまをみしとまるをいっぱいぶるそうどあわさせるそうどあふくれまぐらとちっそあっくさをもの肉のあかやきくゆやうこうふさーーーとさきのてまんるるもうんーんまーさかーのてとらちっぐぞーーてとのまんをいっちゅーーとあとんまとらいをのまふ

一そのものが永く、まこえてる

一方あるいは口が永く、ニクイておまもりかふくが多くみのことさいくいっうりみ合ーぶゆくとてくまんせぶといっておまてあき

とうくあんま孝行をつくることぶむしあるべきものらもの

うんまちっぐぞーーーせん

うんが老母がおりうをもーーーりそれまつけてもふとぐきあるいやノ子代炎いっとまでうきりをかまるふ孝のものとあきゆいっとるりんがくあさるう代炎もをまるのりいがあをつーーとぐるーーとの多うみせんのとうみうけそるるのまうるぐ多うおをうあるうるが方をのもるいあんどあーーうきまりのをおりてちんぐいをゆりるが附おるくを肉へまりぎとんまうぐのるりを永肉のものまるーーうんが老母がおりいいぎんのるるーーーくてひとくるぐーるるる人のようぐりてふくびとるまりしとくちーとるのこぶとうぎりあくーる代炎もあーんるるー母まるるるーをうけーーあのあまりまるひとまるるあんをつーーてるくるんがいよ

▲

京傳　口上

ちえぐ　一きもるたまとへきえのくまもり一ぐくちょぐるん

京山　てんく

一水晶銅石　とるまるちぐ

▲あるまるさくるるものとめぐーくくー

文政三庚辰歳新敗絵草紙目録

紙衣助六　総角　紫服紋茶人形氣　全六冊　山東京傳遺稿　歌川豊國画圖

みのヤ三ろう　あるきのおう松　寐談女須禮　全六冊　山東京山作　歌川國丸画

虚実解　傾城客問答　五冊　東里山人作　勝川春扇画

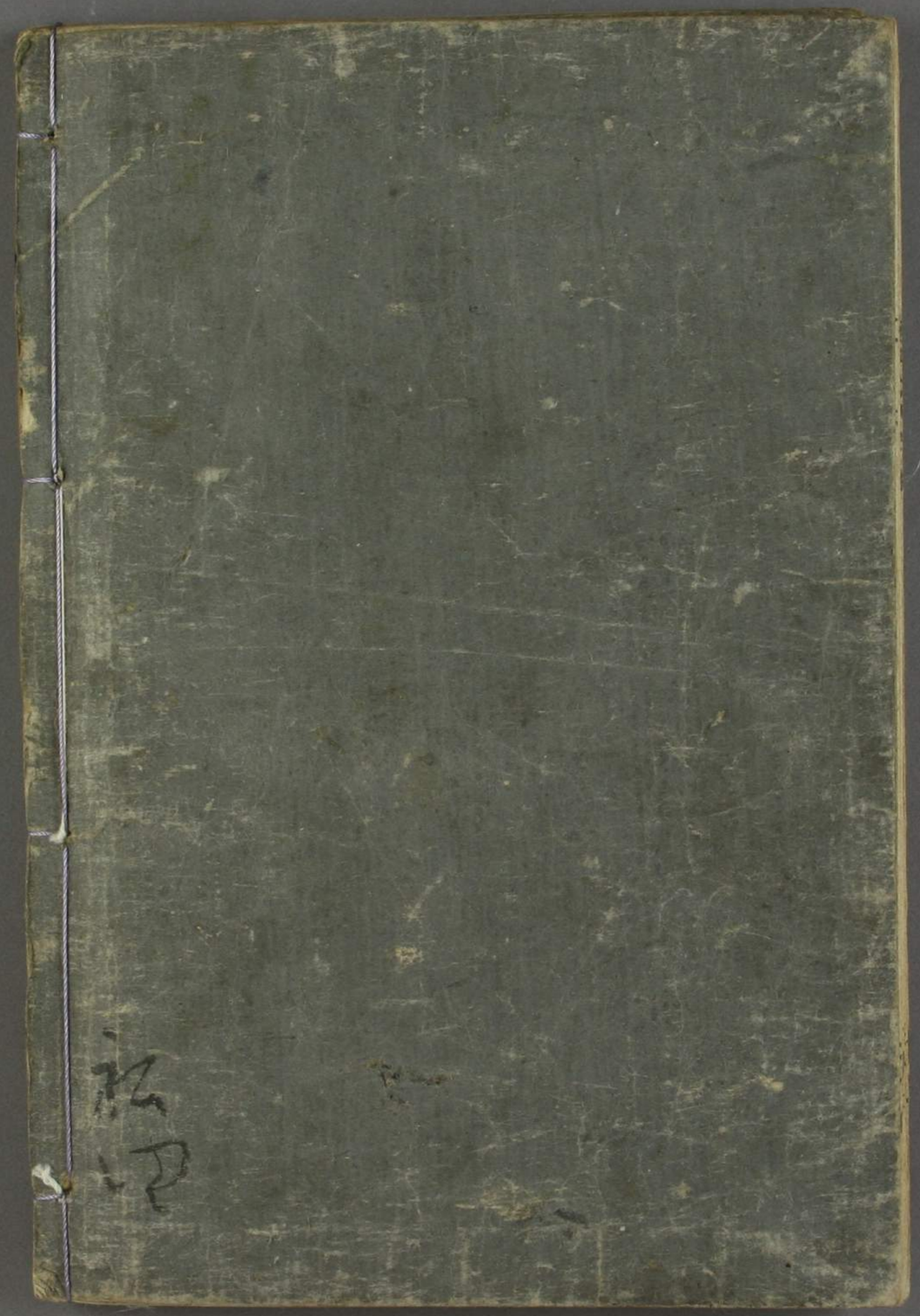
七變化宿直荒事　六冊　月好亭笑壽作　勝川春扇画

敵討暗夜烏　六冊　東里山人作　勝川春扇画

楊弓武士衛頭巾　六冊　東雲南北作　勝川春扇画

梅主由兵衛頭巾　評判

目録の通殘らず出板賣出申候不相替御覧の程ひとへに奉希候　江戸芝神明前　耳泉堂　和泉屋市兵衛

色男大安賣　全五冊　十返舍一九作　勝川春扇画

籠二成竹取物語　全六冊　曲亭馬琴作　勝川春扇画